

令和7年度【高知県版】南海トラフ地震による最大クラスの震度分布・津波浸水予測の概要

震度分布・津波浸水予測を公表する目的

- 国がR7.3に公表した新たな被害想定をベースに、県内の地質調査結果や最新の地形データなどを加味し、より精緻に「震度分布・津波浸水予測」を行い、県が進める南海トラフ地震対策の根幹とする。
- 最大クラスの地震・津波から県民の皆様の命や生活を守るために、揺れ対策や津波避難対策、発災後の応急対策、速やかな復旧・復興といった「事前の備え」を推進する。

公表する震度分布・津波浸水予測の概要

【最大クラスの地震・津波】

- ・現時点の最新的科学的知見に基づき、発生しうる最大クラスの震度分布・津波浸水予測を推計
- ・現在の科学的知見では、発生時期を予測することはできないが、その発生頻度は極めて低い

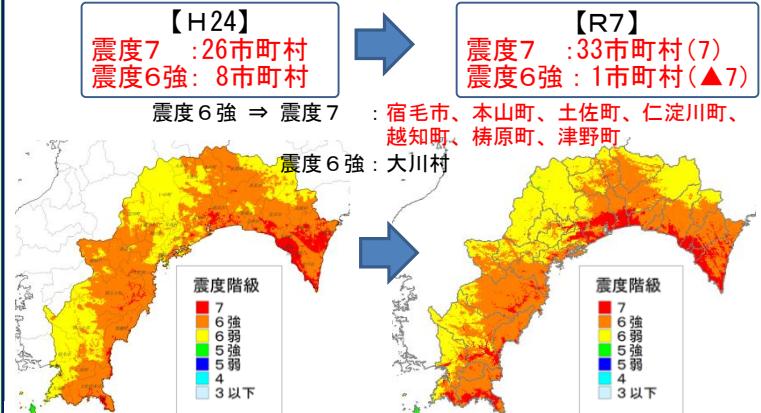
震度分布予測

1) 推計の条件

- 内閣府の4ケースの強震断層モデルにより推計
- 官民が保有する県内約1万本の地質調査結果を追加し、計19,500本のデータから地盤をモデル化
- 地盤の地質特性を踏まえて震度をより適切に算出するために、解析手法を見直し

2) 震度分布と最大震度の占める割合

震度分布(H24→R7)



面積割合(H24→R7)

【震度7】
6.6% → 11.7% (5.1)

【震度6強】
58.3% → 49.6% (▲8.7)

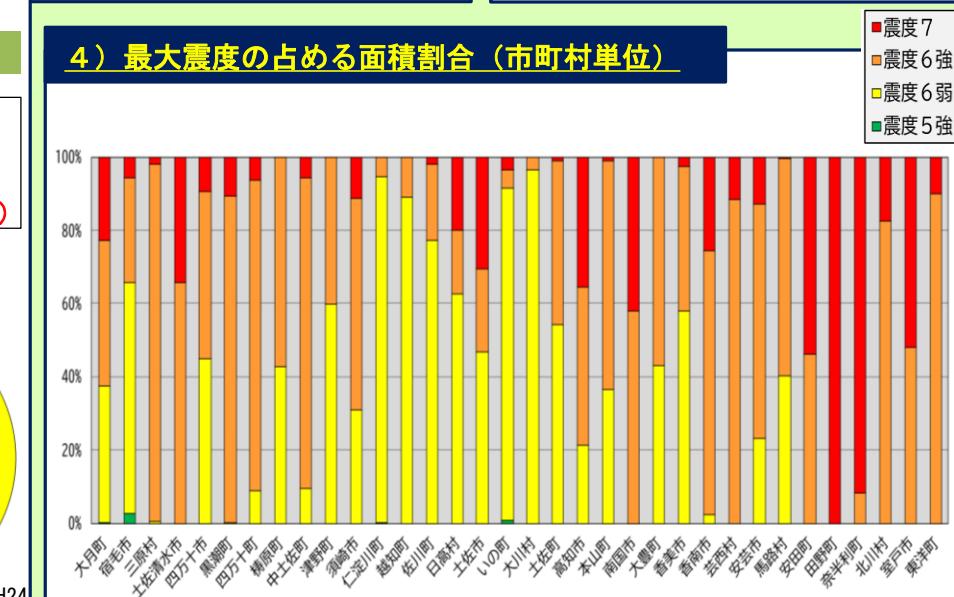
震度5強
0.2% [0.1%]

震度7
11.7% [6.6%]

震度6弱
38.5% [35.0%]

震度6強
49.6% [58.3%]

4) 最大震度の占める面積割合(市町村単位)



津波浸水予測

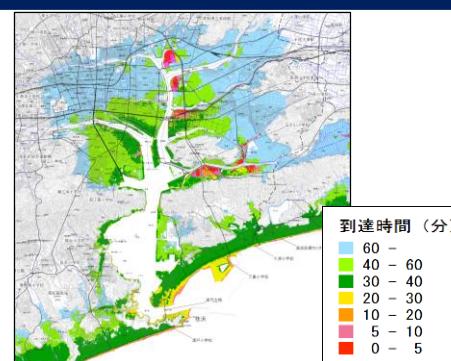
1) 推計の条件

- 内閣府の11ケースの津波断層モデルの内、高知県沿岸で最大の津波高が発生する6ケースで推計
- 最新の地形データなどを反映し、より精緻な推計を実施
- ・最新の地形測量データを反映(測地成果2024(標高改定)、航空測量結果(地形図)を反映)
- ・詳細な地形図に変更(H24 10mメッシュ → R7 5mメッシュ) ※メッシュ:網の目状に区分
- ・直近10年の朔望平均満潮位を反映
- ・高知港の三重防護事業などの堤防の整備状況を反映

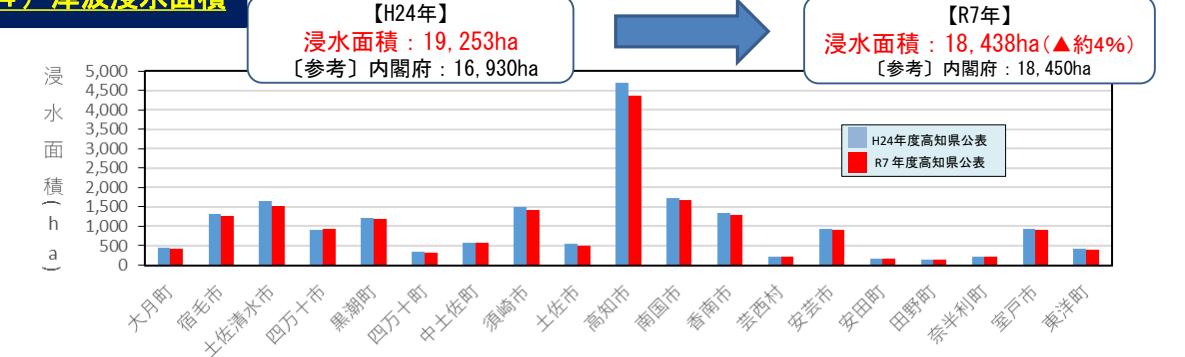
2) 市町村役場付近の最大浸水深

名称	最大浸水深	到達時間(分)	
	(m)	最大浸水深	浸水深30cm
東洋町役場付近	5.4	39	23
室戸市役所付近	2.2	33	33
奈半利町役場付近	4.3	52	16
田野町役場付近	4.5	53	48
高知市役所付近	0.3	308	-
土佐清水市役所付近	3.4	34	33

3) 津波浸水予測時間(浸水深30cm)



4) 津波浸水面積



5) 津波高さ

